

## イタドリの品種選抜に関する研究 (多収性優良系統の選抜)

森林経営課 黒岩宣仁、山崎敏彦

### ■ 目的

高知県では中山間地域の振興のため、高知の食文化であるイタドリの栽培に取り組んでおり、生産性向上のために多収性の品種が求められている。そこで、当センターでは遺伝的多様性を考慮して県内広域から152系統のイタドリを圃場に収集保存し、その中から38系統を一次選抜して挿し木苗を育成し試験圃場に植え付けた。県内と県外の2つの既存品種とも比較しながら3年間栽培し、二次選抜を行った。本年度は二次選抜の最終年度にあたるため、実際に新茎を収穫し、収量等を計測して評価した。

### ■ 内容

2022年4月中旬に152系統の親株の中から一次選抜した38系統と、対照2系統(高知県在来品種、県外選抜品種)の計40系統の苗(1系統につき10株)を2022年12月上旬に圃場に植え付け、2025年3月27日から4月24日までの期間に2日おきに秀品(根元径15mm、草丈40cm以上)を収穫して計測した。

評価基準は、生産性に関わる「収量」及び「皮の剥ぎやすさ」(重要度A)、品質に関わる「皮を剥いだ内部の色」及び「茎の厚み」と生産性に関わる「早晩性」(重要度B)とした。「収量」は秀品の本数、草丈、元口径、重量(皮を剥ぐ前と後)を計測して評価した。「皮の剥ぎやすさ」はサーモスタットで水温45℃に保ったお湯に2分30秒間浸して湯煎し、その直後に手作業で元口から皮を剥ぎ、この時の剥ぎやすさを5段階で評価した。一方、「皮を剥いだ内部の色」は鮮緑色を基本とし、系統ごとに帯赤褐色の茎の出現率を算出して評価した。また「茎の厚み」は皮剥後に元口厚を計測し、元口指数(元口厚指数=元口厚の平均/元口径の平均×100)を算出して評価した。なお、「早晩性」は収穫した期間と1日あたりの本数より収穫期を判断したが、ここでは省略する。

### ■ 成果

図1に上位10系統と県内対照の皮剥後の総重量(10株の合計)を示した。これらの系統の「皮の剥ぎやすさ」を図2に、「皮を剥いだ内部の色」が鮮緑色の割合を図3に、「茎の厚み」の指標である皮剥後の元口指数を図4に示し、これらの結果を表1にまとめた。

選抜系統は、表1の評価項目に「△やや劣る」や「×不可」の評価がなく、すべての項目に「◎優れている」か「○十分である」の評価を得た「須川2」「西石原5」「松葉川3」の3系統とした。「須川2」は県外対照と同等の収量が期待できて皮が剥ぎやすい。「西石原5」は選抜2系統と比べ収量が少ないが県内対照の2倍以上あり皮が剥ぎやすい。「松葉川3」は収量が「須川2」に次いで高く、剥ぎやすさはやや劣るが茎が厚いなどの特徴がある。

その結果、多収性優良系統として3系統を選抜した。

## ■今後の計画

選抜系統の苗を生産地に植栽し、試験地と同等の結果が得られるかの実証試験を実施する。

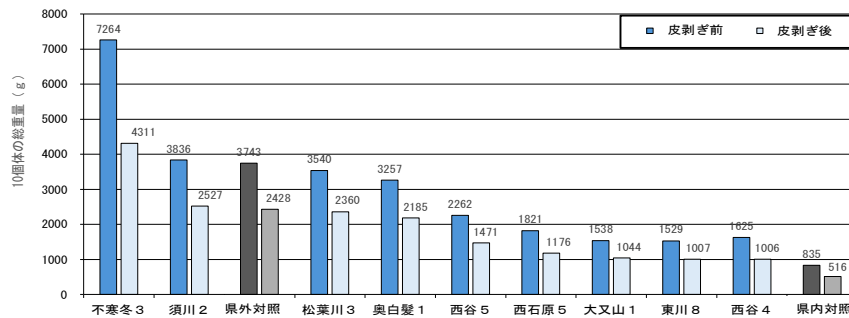


図1 10個体の秀品の総重量

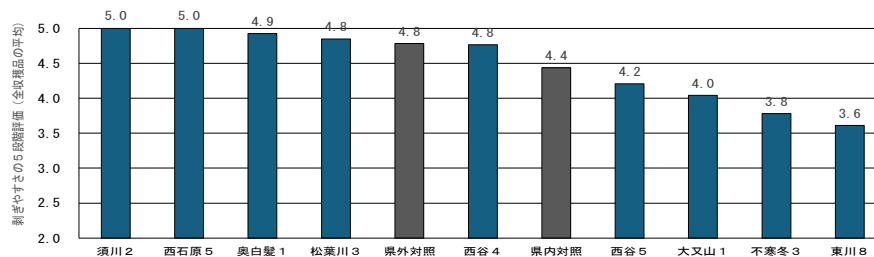


図2 皮の剥ぎやすさの5段階評価

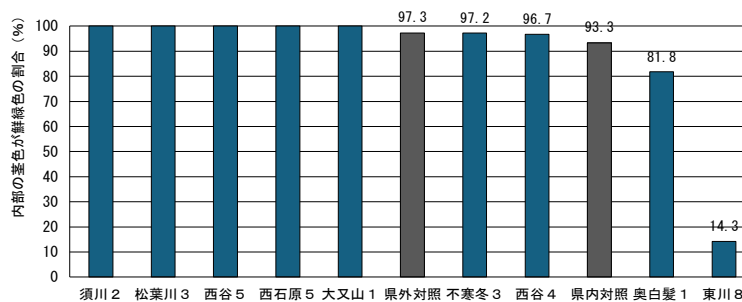


図3 茎の内部が鮮緑色の割合

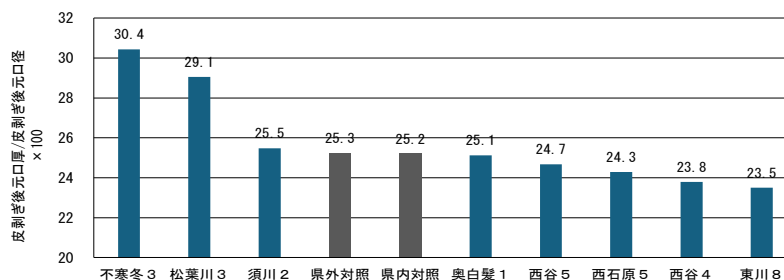


図4 皮剥ぎ後元口厚指数

表1 一次選抜系統（収量上位系統）の評価表

評価項目	重要度	須川 2	西石原 5	松葉川 3	奥白髪 1	西谷 4	西谷 5	不寒冬 3	大又山 1	東川 8
生産性	総重量（皮剥後）	◎	○	◎	◎	○	○	◎	○	○
	皮の剥ぎやすさ	◎	◎	○	○	○	△	×	△	×
品質	茎の中身の色	◎	◎	◎	△	○	◎	○	◎	×
	茎の厚み（皮剥後）	○	○	◎	○	△	○	◎	○	×

◎ 優れている ○ 十分である △ やや劣る × 不可